

# SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

令和4年度予算額(案):44百万円  
(前年度予算額:50百万円)

- 持続可能な開発目標(SDGs)実現に向けた取組が広く普及したことや2020年度から本格実施の新学習指導要領において「持続可能な社会の創り手の育成」が明記されたこと、国連総会等で採択され、ESDが全てのSDGs達成に貢献することを掲げた「ESD for 2030」が2021年ESD世界会議から本格実施されること、さらには、新型コロナウイルスの流行や大規模災害等、**予測不可能なことが起こる時代において、持続可能な社会づくりに対する関心とともに、新たに策定した国内実施計画に基づくSDGs達成のための教育(ESD)の推進の必要性がより一層高まっている。**
- このことを踏まえ、**SDGs実現の担い手に必要な資質・能力の向上を図る優れた取組に対する戦略的な支援を実施。**

## 国内のニーズ

教育を通じたSDGsの達成！

## 国際的なニーズ

- ◆ 2020年度から本格実施の**新学習指導要領**で、**持続可能な社会の創り手の育成が学校に求められる**と明記。
- ◆ 教育振興基本計画やSDGs実施指針改定版(令和元年12月)にSDGs実現のための教育(ESD)の重要性が明記。
- ◆ コロナ禍、大規模災害等を受けて、**持続可能な社会の担い手育成の必要性が高まっている。**



- ◆ コロナ禍を受けた持続可能な社会づくりに対する関心、議論の高まり。
- ◆ 2019年国連総会及びユネスコ総会における、ESDが全てのSDGs達成に貢献することを掲げた「**ESD for 2030**」の採択と、**我が国がユネスコと共に主導するESDの一層の推進**
- ◆ 2017年国連決議「**ESDはすべてのSDGs実現の鍵である。**」

## 事業の柱

## 事業趣旨

## 事業内容(例)

(1) カリキュラム等  
開発・実践

SDGs実現の視点を組み込んだカリキュラム、教材、地域プロジェクト等の開発や教育実践を行う。

- SDGs実現の視点を組み込んだカリキュラム、教材、プロジェクト等の開発や実施、及びその成果の全国的な発信。
- SDGsと地域課題解決・地方創生をテーマとする、民間企業と連携したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)。

(2) 教師教育の推進

SDGs実現の中核的な担い手となる教師の資質・能力の向上を図る。

- 教育委員会や大学等と連携した、学校教師や教員養成課程学生等を対象としたESD研修の実施、及びその成果の発信。
- 教育委員会や大学等に対するESDの普及啓発、指導助言、ネットワーク構築等。

(3) 教育(学習)効果  
の評価と普及

ESDによる教育(学習)効果や学習者の変容を測る評価手法を開発・実践し、その普及を図る。

- 評価手法の開発と教育現場での実践(評価)、及び評価手法の汎用性の向上と教育関係者への普及。

(4) ユース世代の活動  
の推進

SDGs実現に向けて、ユース世代によるESDの取組を加速させる。

- ユース世代によるSDGs実現に向けた自主的・独創的な活動を支援・普及(能力向上、ネットワーク構築等)